

松本光太郎准教授追悼号の発刊に寄せて

松本光太郎先生は、その著作のなかで、「中国雲南省のムスリムは、清朝末期の雲南回民起義敗北や中華人民共和国の成立などの情況の下で、ミャンマー、タイ、台湾などに移住し、様々な困難を克服しつつ、イスラーム宗教改革（経堂教育）の伝統を復興させて来た。こうしたイスラーム宗教教育の復興は、雲南系ムスリム移民の故郷である、中国雲南省における、アラビア語教育あるいは経堂教育の復興に大きく貢献して来たが、こうした宗教教育復興の過程において、雲南省ムスリムの国境を越えたネットワークが大きな役割を果たしていることを明らかにしたい。」¹⁾と研究の方向性や研究意欲について表明しています。ここで言うムスリムについては、別の著作では、「中国には公式統計で約2,000万人のイスラーム教徒、すなわちムスリムがいると言われる。」²⁾と説明しています。本学の松本光太郎先生は、このような中国雲南省の少数民族の研究に没頭されていました。私は、松本光太郎先生の2004年から2007年頃の研究論文を読み返してみました。先生は、中国雲南省の研究一筋に本当に頑張っていたことを読み取ることができます。

松本光太郎先生は、2010年3月5日に逝去されました。春の気配がキャンパスに漂いはじめ、まもなく新しい学年が始まろうとしたとき、未完の多くの研究テーマを残したままに。残念でなりません。

松本光太郎先生は、東京大学と同大学院で文化人類学を専攻され、1990年に博士課程単位取得満期退学されました。博士課程在学中の1986年には2年ほど中国の四川大学および広西民族学院に大学院研究生として留学しています。大学院博士課程を終わるとすぐに本学経済学部の専任講師に迎えられ、「文化人類学」の講義と研究指導などを担当されました。1994年4月に助教授になると同時に中国の対外経済貿易大学との協定に基づく派遣教員として同大学に約半年間派遣されました。

1995年4月に本学に日本で最初のコミュニケーション学部が発足すると同時に松本光太郎先生も経済学部からコミュニケーション学部に移籍をしました。そのとき私も経営学部からコミュニケーション学部に移籍したのです。松本光太郎先生と私は、それまで学部が異な

注

- 1) 松本光太郎「雲南ムスリムにおけるイスラーム教育の歴史と発展」, p. 61, 平成17年度—平成19年度基盤研究(B) 科学研究費補助金研究成果報告書「中国ムスリムの宗教的・商業的ネットワークとイスラーム復興に関する学際的共同研究」, pp. 61-72, 2008年3月
- 2) 松本光太郎「中国雲南省新平県における「彝回」について」東京経済大学コミュニケーション科学第26号, p. 39, 2007年

松本光太郎准教授追悼号の発刊に寄せて

ることもあってあまり交流がありませんでしたが、ともにコミュニケーション学部となつてからは話すことも多くなりました。コミュニケーション学部が設立されるとともに現在の6号館が完成したのですが、6階の先生と私の研究室は偶然にも隣り合わせになりました。そんなご縁もあって在室の時には時折話すようになりました。その後、1999年4月からは国内研究員として1年間大学を離れ、研究に専念されました。

松本光太郎先生の在職中の委員会活動を概観してみますと、国際交流と教務関係が目立ちます。国際交流委員や教務委員には何度も選出されていますし、留学生アドバイザーなどの留学生関連の委員にも多く就任しています。また、2004年10月の東京経済大学雲南研究所の設立にも多大の貢献をいたしました。教育、研究に尽力され、本学に20年間在職し、その足跡を残されました。

享年48歳、あまりに若く志し半ばで倒れ無念なことと思います。これまでのご尽力に感謝を申し上げるとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

2010年7月31日

コミュニケーション学部長 安藤 明之